

# 木野通信 KINO PRESS

KINO PRESS Issue 62 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学  
AUG. 2014 Issue 62

巻頭 卒業生インタビュー

現代美術作家・塩田千春が提示する、  
未来への「鍵」。

62  
号

## 特集 01 FEATURES 01

- 04 巻頭 卒業生インタビュー  
現代美術作家・塩田千春が提示する、未来への「鍵」。

## 特集 02 FEATURES 02

- 11 日本と世界へ尽くす人間の形成をめざして。

## 大学ニュース NEWS

- 14 京都府との連携・協力に関する包括協定を締結／『目玉焼きの黄身 いつつぶす?』がアニメ化／『イン・ザ・ヒーロー』劇場公開  
マンガ学部客員教員 村上もとか「日本漫画家協会賞」優秀賞受賞 ほか
- 17 2013年度決算および、2014年度予算について

## 連載企画 REGULARS

- 20 在学生による授業紹介 第2回 デザイン学部ライフクリエイションコース「京都デザイン 2R」—(株)虎屋との産学連携プロジェクト—  
教員のブックレビュー デザイン学部 竹内一馬が選ぶ「まさか自分がこんな風になるとは!」を物語る本  
セイカ事典 ら・わ行
- 22 イベント紹介 石川九楊連続「公開」講座「“花”の構造」—花と日本人  
おいしい文字がある暮らし ~読み手と作り手の対話~  
特別読書コーナー・サッカーマンガと京都サンガ F.C.& バニーズ京都 SC  
なかよしフェスタ~魔法少女は永遠に~  
「京都の伝統美術工芸」講座  
オープンキャンパス

## ツバメの巣づくりと哲学

学長 竹宮恵子

(マンガ学部ストーリーマンガコース教員/マンガ家)



京都精華大学の学長に就任して、早半年が過ぎようとしています。慌ただしい日々の最中で私の心を和ませてくれたのは、今年わが家にはじめて飛来したツバメの巣づくり。なぜかふたついつべんに巣をかけて、ひとつは落っこしてしまうという、新米ツバメの奮闘ぶりが微笑ましくて……。

考えてみると、私も今、巣づくりの真っ最中なのかもしれません。来年度の人文学部の改組に向けて、新カリキュラムの構築に取り組んでいるところなのですが、大事なやはり“土台”だと思うのです。それは私が長年携わってきたマンガ学部の学生から教えられたこと。彼らは、マンガの技能だけでなく、「日本語についてもっと学びたい」「数学的なことも教えてほしい」と、表現の基礎となる幅広い知識や教養を求めてきたのです。それなら専門教育にとらわれず、普遍的な物事を教えてあげたらいいんじゃないかと考えるようになりました。

こうした経験も踏まえ、人文学部では1年次を“人文学の基礎”と位置づけ、2年次以降の専門領域での学びの礎となる知識や教養、思考力をしっかりと身に付けてもらうことにしました。その大本になる学問が「哲学」です。哲学というと、難解なイメージをもたれるかもしれませんが、要はあらゆるものの「存在」を疑う眼を養うもの。たとえば、鏡の前に立つ自分と鏡に映っている自分は同じように見えるけれど実際は違うのではないかと。といったことを考え出すと、世の中の景色が今までとは違って見える。人間とは何か、社会とは何か、そして自分とは何かを問いただしていく人文学部ではなおさら、哲学的な思考が不可欠だと思うのです。

とはいえ、果たしてそれで正解なのか、実際のところはやってみなければわかりません。でも、もし何らかの問題が生じたなら、新・人文学部の学生と教職員が一丸となって、変えるべきところはどんどん変えていけばいいのです。ツバメの巣づくりと教育との決定的な違いは、これで完成! というゴールがないところなのですから。



巻頭 卒業生インタビュー

# ヴェネチア・ビエンナーレ、 日本代表作家に選出 現代美術作家・塩田千春が提示する、 未来への「鍵」。

ベルリン在住の現代美術作家、塩田千春さん（美術学部洋画専門分野 1996 年卒業）が、来年行われる「第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本代表作家に選出された。大規模なインスタレーションを中心に、「生きることとは何か」、「存在とは何か」と人間の根源的な問題を提起する作品を発表し、現代アートの第一線で世界的に活躍する塩田さん。ビエンナーレへの意気込みと、その制作の原動力に迫る 5000 字インタビュー。

text by KIN TOYO

「美術のオリンピック」ともいわれる「ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」。2年に一度行われるこの現代美術の祭典は、国別にパビリオンを構えて代表アーティストが作品を展示、国の威信をかけて賞を狙う一大イベントだ。その歴史は古く、第1回目の開催は1895年に遡る。かつての出品者にはセザンヌ、ピカソ、マティス、ジョーンズ、リキテンスタイン、日本からは岡本太郎、棟方志功と、美術史に燦然と輝く作家たちも名を連ねることから、代表作家に選ばれることは大変な名誉とされる。そんな世界中が注目するこの美術展にて、次回の日本代表作家に決定したが、美術学部洋画専門分野卒業生の塩田千春さんだ。

日本代表として選出されたことについて塩田さんはこう語る。「日本館の作家に選出されたことは、今までやってきたことが少しでも

認められたということ、とてもうれしいです。ただ難しいのは、ヴェネチア・ビエンナーレという場が、作家が本来の実力を出せる場所ではないということ。86カ国もの国が集まって作品を発表するオリンピックのような場ですから、プレッシャーで実力が発揮できない方も多いわけです。力のある作家だと思っていた人でも、見にいってみるとなんだか失敗している、がっかりしたことが今までもありました。だからこそ、私は力を入れ過ぎず、できるだけ等身大の自分を出せるような作品をつくりたいと思っています。まずは、その気持ちのコントロールに力を入れたいですね。

塩田さんは「不在の中の存在」をテーマに、数多くの大規模なインスタレーションを手掛けてきた。モチーフとなるのは、使い古された無数の靴やスーツケース、感謝の想いがしたためられた手

紙、焼け焦げたピアノや椅子など、誰かが日常的に使ってきたモノたち。ほんの数秒前までは誰かに所有されていたモノ、もしくは何年も前に忘れ去られたモノたちは、持ち主を離れてもなお、ただの物質に戻ることはない。その静まり返った不在の中に潜むのは、なにもものの圧倒的な存在感だ。塩田さんの作品を見る者は、衣服や家具といった身近なモチーフによって、自身の記憶を呼び起こされずにはいられない。塩田さんは、このように実際に人々が使用したモノを作品にし、そこにこびりついた人々の営みを鋭い視点で露わにすることで、生と死の意味を問いかける。

そして、次回のヴェネチア・ビエンナーレの新作インスタレーションのモチーフとして塩田さんが選択したのは、これもまた誰も必ず持っている「鍵」である。

## 震災を経て、今の私たちは「鍵」を握っている状態

——今回の作品には5万本もの鍵を使用するそうですね。鍵にはどんな意味があるのでしょうか。

鍵は大切な人や空間を守ってくれるものであり、信頼のおける人へと託されることから、真心を伝達する媒介だといえます。また、成功の鍵を握っている。というようにチャンスのことを鍵とも言いますよね。扉を開けて未知の世界へ行くきっかけをつくってくれるものでもありません。ヴェネチア・ビエンナーレでは、前回も前々回も、日本館では福島のごがテーマになっていました。2012年には「ここに、建築は、可能か」、2013年には田中功起さんが「抽象的に話すこと―不確かなもの共有とコレクティブ・アクト」という作品で、相手の体験を自分のものにするのがいかに難しいか、相手の傷をどこまで受け入れられるのか、というテーマで作品を発表して注目を浴びました。その上で今回、日本館としてできることは何か、現在の私たちにできることは何か、と考えたときに、いまの私たちは未来への鍵を握っているような状態じゃないかな、と思ったのです。いま持っている鍵でどんな未来を開くのか、それは私たちにしかかかっていると思いま

した。

そこで今回発表するインスタレーションには、毎日の歴史が積み重なり、人々の記憶が宿った鍵を使うことにしました。今、世界中で作品に使用する鍵を集めているところですが、作品をつくる過程で、鍵をくださった方々の記憶と私の記憶が重なることでしよう。そしてその重なりがあった記憶は、ビエンナーレを観に来られた世界中の人々がもつてくる記憶と交錯し、そこにまた新たなコミュニケーションが生まれるのです。

——震災のことは意識されたのでしょうか。

私は2011年の震災を直接的なテーマにした作品はつくれないし、つくらない。ちよつと違うかなと思うのです。でも、ある新聞記者の方が「福島に行ったときに、塩田さんの作品を思い出した」と話してくれたことがあります。私は震災をテーマにした作品をつくってはいないけれども、生と死をテーマにしている限り、どこかで震災の経験とも共通するところがあるのではないのでしょうか。

——多くの作品で「生と死」をテーマにされていますが、そのモチベーションについて教えてください。

ください。また、年齢を重ねていくなかで、一貫性をもたれているのでしょうか？

私の仕事はあるとき死の匂いを感じるものから生きることにへ転換したと思います。暗く重い作品の構成は、今も昔も変わらなにかもしれません。でも、あるときから、生から死、ではなく、死から生、に変わっていったのは確かです。それは自分が癌という重い死の恐怖を実感して、本当に生きたいと感じたことがきっかけになったのかも知れません。同じ黒い糸の作品をつくっても、そこに死の匂いが残るような作品ではなく、血が通っているような作品が作りたくなったのです。あの高知県立美術館での個展「ありがとうの手紙」には血が通っている。無意味な生も無意味な死もこの世にはないのだと、病気のときに、そう思いながら自分を励ました。作品をつくっていて、

精神とこの肉体との境界線がいつも乗り越えられず苦しんでいたのですが、死を実際目前にして、私のなかの宇宙とその外の宇宙の共通なる世界があること、そしてあのとき、私の身体は一番宇宙に近くなっていることを感じました。人間の命は寿命を終えたら、この宇宙に溶け込ん

でいくのかも知れない。もしかしたら死は無と化すのではなく、何かに溶け込んでいく現象に過ぎないのかもしれない。生から死へ消滅するものではなく、より広大なものへと溶け込んでいく。そういうふうな作品のなかで死を取りあげはじめたのです。『死』終わり、ではなく、『死』生として。

結局、私は人のために、見せるために作品をつくっているのではなく、自分にとって必要だからやっているのです。そうでなければ、生きていてもあまり意味がないと思っています。だから自分ができる範囲で作品制作を終えると、もっとできるだろうって思っ腹が立つのです。正直なところ、いままでは作品を見に来てくださる方々と、制作へのモチベーションは関係がなかった。でもある時ふと誰かの良い作品に出会うと、自分も美術をやっていて良かった、この世界を共有できて本当に良かったと感動して泣けてくるんです。

## 新作インスタレーション『掌の鍵』

次回のヴェネチア・ビエンナーレで塩田さんが発表する作



02



01



03

### 01

《不在の対話》

*Dialogue with Absence*

2012年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）

撮影者：サニー・マンク

### 02

《大陸を越えて》

*Over the Continents*

2008年 国立国際美術館（大阪）

撮影者：サニー・マンク

### 03

《ありがとうの手紙》

*Letters of Thanks*

2013年 高知県立美術館（高知）

撮影者：サニー・マンク

品『掌の鍵』・The Key in the Hand-』は、天井から垂れ下がって空間を埋め尽くす赤い糸と、糸の先に結ばれた約5万本におよぶ鍵、その中に置かれる2艘の舟と、子どもの写真や映像で構成されるという。

——作品の発想はどんなところから湧いてくるのでしょうか。

私のなかにはたくさんさんの引き出しがあって、こんな会場ではこういうものをつくりたいな、というアイデアがいっぱい入っています。展示会のときは、その引き出しから展示空間に合うものを出してくる感じですね。今年の6月にヴェネチアに視察に行きましたが、日本館の建物ですごく変わった構造をしているんです。柱が4本ある高床式住居みたいな感じで、1階がピロティ、階段を上がると展示室があります。今回も、建築はどういう気持ちでつくられたのかな、という所から入っていき、実際に会場に入る導線を考えながら、作品の構成を考えました。

——塩田さんの作品は同一のモチーフを大量に用いたり、作品自体が大規模であることが多いですね。今回の企画ではどのようになっているのでしょうか。

前後の記憶について話す子どもたちの映像を流し、鍵を持った子どもの手のひらの写真を展示します。そして階段を上がっていくと、天井から5万本の鍵が赤い糸で吊るされているインスタレーションが現れる、という構成になっています。5万本という数にしたのは、一瞬にして人に伝えるためには、やはりある程度の空間、量は必要だという気がするからです。鍵の下には、記憶の海を渡る二艘の舟、として舟が二艘あります。二艘の舟は手のひらのようにも見えて、両手で鍵を持っているような状態をも意味します。1階は人間がはじめてもつ記憶、2階は人間がもつ過去の記憶。建物の構造から、ちょうど未来が過去を支えているようなかたちになります。そのふたつの間に「生」を感じてもらえたら、と思っています。

——塩田さんは多くの作品で、モノに内在した記憶を扱っていらっしゃるんですね。塩田さんにとって記憶とは何ですか。

私が一貫してテーマとしているのが「今は不在である空間に、確実に存在するもの」。記憶もそのテーマに通じるものです。記憶って存在してはいないのに、すごく存在感のあるものだなと



写真左は、日本館での展示のイメージを表した模型。1階は、子どもの手のひらの写真(写真右)や映像を展示。2階は、高さのある空間を活かし、約5万本の鍵を天井から赤い糸で吊るす。  
撮影者：サニー・マンク

## 制作に没頭した 学生時代

——芸術を大学で学んで良かったと思ってるじゃないですか。  
私自身は良かったと思っております。学生の間に、社会から守られていますから、4年間は落ち着いた環境で制作ができました。あの4年間なしでいきなり世の荒波に出たら、そこでもう、つくれなくなっていたかもしれません。学生という身分で社会から守られながら制作できる、それが美大の良いところだと思います。優等生でなくてもいいから、自分の目標さえ4年間で見つけられたらいいですよ。

——塩田さんが4年間で見つけたものは、何だったのでしょうか。  
精華に入りたての頃に自由課題があった、どんなことをしても良いと言われたんです。私は高校から美術科で絵を描いていたものですが、そのときもとりあえず絵を描いて出しました。でも、そのときふと、これだけ自由なのに絵である必要があるのかな?と疑問に思いはじめたんです。結局それ以降、キャンバスに絵を描くことはなくなつて、それからは、現在と同じような糸で空間を埋め尽くすよ

思っているんです。昔からなぜだか、誰かがいた部屋の気配に惹かれるんですよね。今まで誰かがいたような感じがするのにな、実際には誰もいなかったり、人が亡くなったときに、はじめでその人の存在がより強く感じられたりすることに、とても不思議な気持ち覚えて、そういう空間をつくってみたいと思うんです。

## 欠けている部分があるから制作ができる

——年間20近くの個展やグループ展に出されるなど、世界中で活動されていますが、制作の原動力はどこから湧いてくるのでしょうか。

原動力。うーん、人間として欠けているからじゃないですかね。私は普通に就職したこともないし、欠けた部分がたくさんあるんです。それを埋めるためには、自分はどう作品をつくるしかない。作品をつくりながら、これではいけないと、自分の欠けている部分を埋めていくような感じですが、でも、欠けた部分がない作品をつくることもないし、自分のなかで葛藤することも少ない。満たされないことが原動力なのかもしれないです

ね。

アーティストの世界というのは不思議なもので、誰かに頼まれて制作をするわけではなく、自分がつくりたいから、つくっている部分もあるわけです。普通の職人さんなら注文がきたらつくるわけですが、作家は注文がこなくてもつくり続けなくてはならない、とても珍しい職業なんですよ。私も今は展覧会の依頼があるから制作しているわけですけど、それが終わっても制作はずっと続きます。かといって趣味ではないし、自分の生きていることと制作することが、もはや一体化しています。変わった職業を選んだな、と思います。でも、私はアーティスト以外の何者にもなりたくないの、もはやそこに疑問を感じないですね。

——現在ベルリン在住で、ドイツを拠点に世界中を飛びまわっているらしいですが、制作環境としての日本とドイツの違いはどんなところでしょうか。

現ドイツでは、アーティストが職業として見なされるし、アーティストへのリスペクトが日本とはまったく違いますね。「あなたの職業は何ですか」と聞かれて「アーティストです」と自信をもって言えるわけです。日本

ヴェネチア・ビエンナーレの会期は2015年5月9日〜11月22日。インスタレーションは「瞬間の哲学」という塩田さんの作品を通して、私たちは瞬間的にどんな生を、どんな死を考えるのだろうか。楽しみである。なお、2014年10月下旬まで

作品に使用する鍵の募集ボックスを京都精華大学内に設けている。不要だけれど捨てられない。そんな鍵を持っている方は、ぜひ鍵の提供を通して作品に参加してみたいかがだろうか。

ではまだそこまで作家への理解がされていない気がします。とくに、私が日本にいた頃は、大学を出てアーティストで食べていくなんてとても無理でした。発表する場所もないので、貸し画廊に一週間20万も支払って個展をする。その合間にアルバイトをして生活するなんてあまりにも大変で。私はもう少し作品をつくることに集中したいな、と思って日本を出て、ドイツへ行きました。

私は海外では、日本人アーティストとして見られますが、日本で展覧会をするとドイツ在住と書かれて、なんだか外国人のよいうな気がしたりもします。実際、日本から離れば離れるほど日本が恋しくなったりもしますが、作品のなかではできるだけ国籍がない、それどころか性別もないうちでやりたい、という気持ちがあります。作品はただ、塩田千春、としてやりたいのです。今回もパビリオンでは日本代表ですが、そもそも芸術って国境がないもの。いろんな国・民族の人々が芸術を通してわかりあえる、ということが大切だと思うので、国を越えて理解してもらえないような作品をつくりたいです。今回、そこまでもついてもいいかなと思います。



学生時代は、とにかく展覧会が好きで年6回ほどのペースだったそう。目標を細かく定めることで、自分の背中を押していたという。



## 日本と世界へ尽くす人間の形成をめざして。

急速にグローバル化が進む昨今。そうした社会に対応できる人材の育成がいつそう求められている。京都精華大学は創設以来、「国際主義」を掲げ、広く国内外に開かれた教育を行ってきた。この教育理念にもとづいて、20年以上に渡って行われてきたプログラムが「海外フィールドワーク」と「交換留学」である。留学を体験した早川葵さん、新たなフィールド・プログラムの充実を図る人文学部長ウズビ・サコから話を聞くことで、その意義を考えたい。

### 国際交流 ——国際交流のさかんな大学

国際課の源流は、人文学部の設立された1989年に、国際交流課として発足したことにまで遡ります。90年代には、1学期間海外協定校を拠点に学ぶ、人文学部のフィールドワークと、美術学部の交換留学がスタートし、海外プログラムも数多く導入されるなど、建学の理念にある「国際主義」の実践をサポートする体制を整えてきました。国際的な芸術・デザイン系大学のネットワーク「CUMULUS（クムルス）」に日本ではじめて参加し、2008年には京都において国際会議を主催するなど、先進的な取り組みの甲斐もあり、現在交換留学の提携校は芸術系大学を中心に26校にまで増えています。交換留学を経て、海外へ進学、海外で活躍する卒業生も少なくありません。

2014年5月現在、在籍している留学生は、在籍学生全体の約6%（27カ国、233名）を占めます。また、

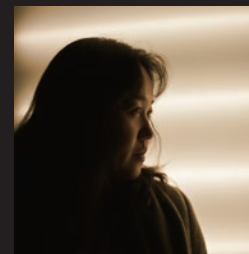
話を聞いた人  
国際課長  
大羽 勇憲



留学の受け入れや派遣を通じ、建学理念の「国際主義」をサポート

1学期間の交換留学生のほか、海外協定校が本学および京都を拠点に実施する日本語プログラムやフィールド・プログラムなどを通じて留学生を受け入れています。そのため、毎年100名近くの本学学生が、日本語会話のパートナーなどのボランティアに携わっています。

グローバル化の進展や社会構造の変化に伴い、卒業後の活躍の場が海外に広がるとともに、国内においても多様な文化的背景を有する人々と接する機会や、協働、共生する機会は今後ますます増加するでしょう。芸術系大学の交換留学のさらなる発展や、人文学部の新たなフィールド・プログラムの充実などを通じて、これからの多くの学生たちに、様々な文化や価値を認め、己を見つめ直して自己を確立するという、国際主義の根幹を体験してもらいたいと思います。



### 塩田千春 SHIOTA Chiharu

1972年、大阪生まれ。1996年、京都精華大学美術学部洋画専門分野卒業。村岡三郎に師事した後、渡独。1997年、ブラウンシュバイク美術大学に在籍、マリナ・アブラモヴィッチに師事。後にベルリン芸術大学にて学ぶ。2008年、神奈川県民ホールギャラリーの個展「沈黙から」で平成19年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2012年、文化庁よりオーストラリア文化交流使に任命されオーストラリアを訪問。第1回キエフ国際現代美術ビエンナーレにてオーディエンスチョイス賞受賞。現在、ベルリンを拠点に、生と死という人間の根源的な命題を直視し「生きることは何か」「存在とは何か」を探求し作品とする。

<http://www.chiharu-shiota.com>

- 《主な個展》
- 2014年 「ダイアログス」 ニューアートギャラリー・ウォルソール（ウォルソール/イギリス）
  - 2013年 「記憶の跡」 マットレスファクトリー（ピッツバーグ/アメリカ）  
「ありがとうの手紙」 高知県立美術館（高知）
  - 2012年 「交差する糸とリゾーム」 カーサ・アジア（マドリッド/スペイン）  
「私たちの行方」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
  - 2011年 「本の記憶」 ゲヴァスティ・ファンデーション（ヴェネチア/イタリア）
  - 2009年 「流れる水」 発電所美術館（富山）
  - 2008年 「精神の呼吸」 国立国際美術館（大阪）
  - 2007年 「沈黙から」 神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
- 《主なグループ展》
- 2014年 「ゴー・ビトゥイーンズ展：子どもを通して見る世界」 森美術館（東京）
  - 2013年 「レッド・クイーン」 MONA（タスマニア/オーストラリア）
  - 2012年 「生きる場所 ボーダーレスの空へ」 熊本市現代美術館（熊本）
  - 2011年 「Inner Voices -内なる声」 金沢21世紀美術館（金沢）
  - 2010年 「あいちトリエンナーレ2010 -都市の祝祭-」（名古屋）  
「瀬戸内国際芸術祭2010 -アートと海を巡る百日間の冒険-」（豊島/香川）
  - 2009年 「第3回モスクワビエンナーレ」（モスクワ/ロシア）  
「越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭」（新潟）
  - 2008年 「雲に描かれた絵」 Kiasma 現代美術館（ヘルシンキ/フィンランド）
- 展覧会のみならず、2013年、監督：サシャ・ヴァルツ、音楽：細川俊夫によるオペラ「松風」（ベルリン他3カ国を巡回）や、2014年、リチャード・ワグナー作オペラ「トリスタンとイゾルデ」（キール/ドイツ）の舞台演出も手掛ける。

### 《第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展》

会期：2015年5月9日（土）～11月22日（日） 会場：カステッロ公園内 日本館（イタリア/ヴェネチア）

主催：国際交流基金 日本館ウェブサイト：<http://2015.veneziabiennale-japanpavilion.jp/>

### 《ビエンナーレ作品に使用する「鍵」の募集にご協力ください》

塩田千春が展示する新作インスタレーション『《掌の鍵》-The Key in the Hand-』では、大量の鍵を使用します。皆さまやご家族、ご友人等のご不要となった鍵を下記のとおり郵送の募集もしております。ご協力よろしくお願い申し上げます。

- 鍵の形状や状態は問いません。ただし、ロックではなくキーのみを募集しております。
- 不要となった鍵を無償にてご提供いただける場合に限りさせていただきます。
- 恐れ入りますが、送料はご提供者様にてご負担をお願いいたします。
- ご提供は、郵送、宅急便等の配送のみに限ります。
- 展覧会終了後の鍵の返却はいたしません。
- ご提供者様のお名前の掲載、受領書の発行等はございません。

送付先：〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1 国際交流基金 文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム内 塩田千春「鍵」係

募集締切：2014年10月31日 問い合わせ先：国際交流基金 文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム

担当：大平、小山田 電話：03-5369-6063 FAX：03-5369-6038 E-mail：venezia@jpf.go.jp

## 交換留学

海外で活躍する留学生

2013年8月〜2014年3月にかけての約8カ月間、フィンランドへの交換留学を経験した、テキスタイルコースの早川葵さん。高校生の頃からの念願であったという留学体験を伺った。

高校生のときに「毎日・DAS高校生デザイン賞」の服飾部門賞を受賞したことがきっかけで、生地のことをもっと学びたいと思ったんです。また、それと同じぐらい重要だったのが留学。受験前に、外国語大学も含めて各大学をまわり、協定校を調べました。最終的にテキスタイルが学べて、なおかつ交換留学の協定校が多い、精華に決めました。

入学後は留学の準備で忙しい毎日でした。なによりも語学力。文法より先に、とにかく会話する機会を増やそうと思い、精華に来る留学生に対して日本語を教えるボランティアを買って出たんです。精華にはTOEFL対策の講座を受けられるサポートもあり、とても役立ちましたね。

あと、お金の課題のひとつでした。滞在費はもちろん、現地での作品出展にかかる制作費、それにヨーロッパを楽しむ旅費も必要としたので、2年次

が終わったときに休学をして、1年間をアルバイトに費やしたんです。

留学先は、フィンランドのトゥルクアーツアカデミーへ。毎年、ドイツで開かれる世界最大のテキスタイルの見本市「ハイムテキスタイル」に、世界で唯一デザイナーという称号をもってブースを出せる大学なんです。世界一のインテリア関連の企業が集まる見本市で、自分のデザインを売り込みたいと思ったんです。

出展に向けてまず、フランスやイギリス、中国からの留学生と現地の学生を交えて、18名で会社を立ち上げました。それぞれ経理やマーケティング、プレスなどの役割をもち、私はデザインを担当。みんな日本人に比べて率直に意見を主張するので、最初は環境の違いに戸惑いました。

見本市の当日は、世界中のインテリア関連の企業を前に、自分のデザインを売り込む貴重な体験ができました。しかも、実際に韓国の企業が、私の手掛けた壁紙のデザインを買ってくださり、そのデザインは壁紙として、韓国の家々を彩ることに。念願が叶い、本当にうれしかったです。

留学から戻って来ても、また海外で学びたいという思いが強く、今後はフィンランドでの大学院進学を考えています。将来はフィンランドで学んだデザインを活かし、子ども服のブランドを立ち上げのが夢です。

## フィールド・プログラム

自分の視野を広げる体験主義

話を聞いた人  
人文学部長  
ウスビ・サコ

異文化のなかに身を置き  
自分が何者なのかを考える



2015年春から、人文学部のカリキュラムが大きく刷新される。なかでも目玉となるのが、3年次前期の「フィールド・プログラム」。すべての学生が半年間キャンパスを離れ、国内外の異文化に身を置く一風変わった「留学」だ。見知らぬ土地に長期ステイしながら学ぶ意義とは？人文学部長のウスビ・サコが語る。

近年の各大学は、専門性を重視するあまり、自分の興味の範囲内で完結した人を育てているように見えます。いろんな人と共同していくための総合的なコミュニケーション能力が低下しては、各々の専門を活かすことはできません。大学は、学問の探求だけではなく、広い教養を身に付け、いろんな人と協調できる人間形成の場であるべきです。人文学部は開設以来、「学際主義」「体験主義」「国際主義」を掲げ、専門性に縛られず、広く「教養」を身に付けることを目標にしてきました。来年、カリキュラムを刷新し、この原点に立ち返ります。

その核となるのが、3年次の「フィールド・プログラム」。キャンパスを離れて、国内外の演習地に長期ステイします。国外の演習地としては、現在、アジアを中心に11カ国を予定しています。

現地での最初の2カ月間は、提携



留学のチャンスに恵まれた大学  
後輩たちにもうまく活用してほしい

話を聞いた人  
芸術学部  
テキスタイルコース4年  
早川 葵さん



大学の協力も得ながら、現地語やその地の歴史について学びます。次の段階は、先入観を取り除き、現地の現状に対して正しい知識を得ること。そして、残りの期間は現地のNGOや企業などで学ぶ「インターンシップ」と、自分で選んだテーマを掘り下げる「調査研究」に分かれて学びます。長期滞在を通して現地の人と深く関わり、表面的な問題だけでなく、問題の根幹を考えられる視点や課題解決のスキルを身に付けることが狙いです。

人文学部では、以前から海外での調査プログラムはあったのですが、今回のプログラムの特徴は、必修科目であること。「体験主義」を謳う人文学部の原点に戻り、どの学生も教室を離れて、「現場と出会うこと」を目的としています。海外や異文化の中で暮らすと、日常では起こりえない多様な価値観にぶつかります。自分の常識が通じないことを知り、ときに自分自身を疑わなくてはいけません。私自身、マリ共和国出身ですが、日本に住む前と今では、母国の情報の受け取り方が大きく変わりました。違う価値観と出合い、ショックを重なる中で、「自分は何者なのか」ということを考えてもらう。自らを客観的に見ようとすることは、自分を変える力への第一歩になるわけです。

## 01

京都府との連携・協力に関する包括協定を締結

2014年6月6日、京都精華大学は京都府との連携・協力に関する包括協定を締結した。

今後は、本学の研究成果や資材を活かし、府民啓発・府民運動、文化・観光の振興、まちづくり・地域福祉などについて、京都府と協働事業に取り組んでいく。京都府の府民サービスの充実や府内全域の地域活性化。本学の教育研究の成果発信、フィールド学習や研究を通じた学生の成長、地域との交流の活性化が期待されている。

本協定の締結は、京都府の特定検診およびがん検診の受診率向上に向けた取組の一環として、京都府より、小学校3・4年生を対象とした生活習慣病予防・検診受診啓発のためのマンガ制作を依頼されたことがきっかけとなった。

マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生の小畑亜祐美さんが作画を担当した『あしたのげんきにキックオフ!』は、「生活習慣病予防・検診受診について早い段階から教育することが大切」との府民の声を反映し、子どもにもわかりやすい啓発マンガとして制作された。

3万部の冊子が制作され、京都府内の小学校約400校に配布されたほか、府内の薬局約900カ所に配架されている。

## 『vanitas No.003』

蘆田裕史(ファッションコース教員/ファッション研究者)/vanitas編集部 日本にはファッション批評がないという現状に一石を投じるべく、刊行されたファッション批評誌。デザイナーであるファッションコース教員・柳田剛へのインタビューも掲載されている。

## ◎CD (2014年5月〜7月発売)

『TRIO』『高野寛 ソングブック〜tribute to HIROSHI TAKANO〜』高野寛(音楽コース教員/ミュージシャン)/Sunburst Inc./OCTAVE 高野寛デビュー25周年を記念して制作。『TRIO』はブラジルでレコーディングが行われた作品で、新曲とセルフカバーで構成された16曲入り。『高野寛 ソングブック〜tribute to HIROSHI TAKANO〜』は、高橋幸宏、浜崎貴司、ハナレグミ、岸田繁(くるり)など、高野寛と親交の深いミュージシャンが思い入れの強い曲をカバーした一作。

## ◎ライブ

『Slow Music Slow LIVE '14 in 池上本門寺』

高野寛(音楽コース教員)/ミュージシャン)

【日時】8月29日(金)〜31日(日)

## 02

## 教員の活躍

著作をはじめ、展覧会、作品発表など、京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

## ◎著作 (2014年5月〜7月発行)

## 『わらうほし』

荒井良二(デザイン学部客員教員/絵本作家)/学研教育出版

わらうほしのわらうまちです。まどをあけただけでわらうまちです。わらうあめです。ふるだけでわらうあめです。

※高野寛は8月31日(日)出演  
【場所】池上本門寺・野外特設ステージ(東京・大田区)

## 『KOYABU SONIC 2014 FINAL supported by upiii』

Bose(音楽コース教員/ミュージシャン) ※スチャダラパーとして出演  
【日時】9月13日(土)〜15日(月・祝)  
【場所】インテックス大阪・5号館(大阪府・住之江区)

『Peter Barakan, s Live Magic!』細野晴臣(ポピュラーカルチャー学部客員教員/ミュージシャン)  
【日時】10月25日(土)・26日(日)  
※細野晴臣は10月25日(土)出演  
【場所】恵比寿ザ・ガーデンホール/ガーデンルーム(東京・目黒区)

## ◎展覧会・その他

開山栄西禅師八百年大遠譚慶讃 鳥羽美花「型染襖絵」プロジェクト  
鳥羽美花(テキスタイルコース教員/染色作家)  
【日時】11月29日(土)〜12月14日(日) 10時〜16時

【場所】建仁寺(京都・東山区)

「新・現代日本デザイン100選 (JAPANESE DESIGN TODAY 100)」会場デザイン  
鈴野浩一(デザイン学部客員教員

す。山も森も、花も雲も、ぼくもわたしも、みんなわらっています。読み終えると自然と笑顔になれる絵本。

## 『愚民文明の暴走』

吳智英(マンガ学部客員教員/評論家)/講談社

食品の偽装表示問題、秘密保護法反対デモ、政権交代の反動票……無責任極まりない近代大衆社会の病について深く洞察し、民主主義・人権主義の偽善について警鐘をならしつけてきた評論家・吳智英と新進気鋭の哲学者・適菜収が、現代ニッポンの真の「病の姿」を赤裸々にあばき、その解決法について徹底的に考察し論じ尽くす。

## 『漫画家たちが描いた日本の歴史』

中野晴行(マンガ学部客員教員/編集者)/金の星社

出版社や掲載誌の枠を超えて刊行されたシリーズ。日本人が稲作をはじめたようになった時代から、東日本震災の福島原発事故を題材にした作品まで、その時代に生きる人々の生活やできごと、事件を描いたマンガ作品が多数収録されている。

## 『十二国記』画集(第一集 久遠の庭)

山田章博(マンガ学部客員教員/イラストレーター)/新潮社

小野不由美氏の著書『十二国記』の世界を彩る美麗なイラストを原画に近い迫力で完全収録した画集の第一弾。

／トラフ建築設計事務所共同主宰) 2014年6月アメリカ・ロサンゼルスを皮切りに世界で開催される巡回展。日本のプロダクトデザイン100点が展示される。鈴野浩一はトラフ建築設計事務所として、展示会デザインを担当。

## 『目玉焼きの黄身 いつつぶす?』がアニメ化

ギャグマンガコース教員のおおひなたこうじによる『目玉焼きの黄身 いつつぶす?』がNHK総合でアニメ化され、全4回(8月4日〜7日)で放映された。本作は料理の食べ方にフォーカスしたグルメマンガ。食べ方に人一倍こだわりをもつ主人公の田宮丸二郎が、他人との食べ方の違いに苦悩する様子をコミカルに描いていく。放送は、EBSのアニメパートと、実際にレストランなどを訪れ、食べ方を探求する実写パートの2部構成。

## 『イン・ザ・ヒーロー』劇場公開

人文学部客員教員・李鳳宇が脚本・プロデューサーを担当する映画『イン・ザ・ヒーロー』が2014年9月6日から全国公開される。顔を知



# REPORT

## 2013年度決算および、2014年度予算について

### 2013年度決算について

2013年度の帰属収入は前年度から2億6千万円増加し、65億円でした。このうち学生納付金は80%を占めています。当年度は新校舎の「友愛館」に関連する工事費、設備備品費等として12億2千万円を支出しました。前年度に設計費、工事着手金、他の諸経費として支出した5億円をあわせると、「友愛館」に関わる総事業費は17億2千万円となります。なお、この内、3億円は2010年度から新校舎建築費用として積み立てていた第2号基本金を、4億1千万円は市中金融機関からの借入金をそれぞれ充当しています。その他、当年度は講義室や実習室に設置するパソコン、AV機器、ネットワーク機器等を大幅に入れ替えたため、経常的な図書・備品の充実等も含め、施設設備関係全体では15億7千万円の支出となりました。これらにより、当年度の大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は8億7千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は61億4千万円で、当年度の消費収支は5億1千万円の支出超過となり、この結果、累積消費支出超過額は41億6千万円に増加しました。しかしながら、基本金組入前の収支は収入超過を維持しています。

支払資金（現金・預金）は前年比17億8千万円減の17億4千万円となりました。但し、支払資金の一部は固定資産の取得に充てているため、支払資金を含む流動資産が減少となっている一方で、大学の資産全体としては4億3千万円が増加しました。また、自己資金は3億6千万円増加しました。

以上の結果、自己資金率は0.1%増加し、81.3%となりました。

### 2013年度決算 2013年4月1日から2014年3月31日まで

#### 資金収支計算書

収入の部		金額
学生生徒等納付金収入		5,195,097,100
手数料収入		45,261,712
寄付金収入		69,910,000
補助金収入		538,061,712
国庫補助金収入		537,738,000
地方公共団体補助金収入		323,712
資産運用収入		102,254,346
資産売却収入		210,319,574
事業収入		264,548,555
雑収入		270,286,220
借入金等収入		414,000,000
前受金収入		1,495,219,072
その他の収入		681,787,080
資金収入調整勘定		△ 1,835,220,704
前年度繰越支払資金		3,514,409,078
収入の部合計		10,965,933,745
支出の部		金額
人件費支出		3,500,579,047
教育研究経費支出		1,332,243,891
管理経費支出		599,601,335
借入金等利息支出		43,875,374
借入金等返済支出		282,284,000
施設関係支出		1,154,219,146
設備関係支出		419,869,751
資産運用支出		1,796,973,000
その他の支出		216,058,471
資金支出調整勘定		△ 117,771,172
次年度繰越支払資金		1,738,000,902
支出の部合計		10,965,933,745

#### 消費収支計算書

消費収入の部		金額
学生生徒等納付金		5,195,097,100
手数料		45,261,712
寄付金		72,430,929
補助金		538,061,712
国庫補助金		537,738,000
地方公共団体補助金		323,712
資産運用収入		102,254,346
資産売却差額		9,744,000
事業収入		264,548,555
雑収入		270,286,220
帰属収入合計		6,497,684,574
基本金組入額合計		△ 868,272,616
消費収入の部合計		5,629,411,958
消費支出の部		金額
人件費		3,480,626,602
教育研究経費		1,932,829,607
管理経費		644,559,336
借入金等利息		43,875,374
資産処分差額		18,764,558
徴収不能額		19,351,300
消費支出の部合計		6,140,006,777
当年度消費支出超過額		510,594,819
前年度繰越消費支出超過額		3,646,722,619
翌年度繰越消費支出超過額		4,157,317,438

## 03

### 卒業生の活躍

著作をはじめ、受賞、作品発表・連載など、京都精華大学の卒業生の活躍を紹介する。

◎芸術（2014年5月～7月）

られることなく活躍するスーツアクターに焦点を当て、唐沢寿明の決死のスタントや、黒谷友香扮する男性ヒーロー、久々に特撮ヒーローを演じる福士蒼汰などが見所。

マンガ学部客員教員 村上もとか「日本漫画家協会賞」優秀賞受賞

「第42回日本漫画家協会賞」において、マンガ学部客員教員である村上もとかの作品「フィチン再見！」が優秀賞を受賞。同作品は、日本において「女流マンガ家」という道を拓いた1917年生まれのマンガ家・上田としこが主人公の物語。「上田としこ」という女性漫画家の生き方、その仕事、それを明るく厳しく描いて感動深い。旧満州の生活、労働と家庭描写、ユーモラスに、だが不安感も漂わせつつ自分の漫画世界を作り上げて行く姿を見事に浮き彫りにしている」と評され、受賞にいたった。

石山哲央さん（芸術学部陶芸コース卒業生）  
「GEMSA#20」グランプリ・金賞受賞

児玉太一さん（芸術研究科博士前期課程修了生）  
「第17回フレッチェン国際版画トリエンナーレ」奨励賞受賞  
「カルメン・アロセナ国際版画賞2014」銀賞受賞

◎デザイン（2014年5月～7月）  
鈴木亜生さん（美術学部建築専門分野卒業生）  
「住まいの環境デザイン・アワード2014」グランプリ受賞

◎マンガ（2014年5月～7月）  
阿部洋一さん（芸術学部ストーリーマンガ専門分野卒業生）  
著書「橙は、半透明に二度寝する」1巻出版／講談社

金城宗幸さん（マンガ学部マンガプロデュースコース卒業生）  
原作「インビジブル・ジョー」1巻出版／講談社

作元健司さん（マンガ学部マンガプロデュースコース卒業生）  
原作「天啓のアリマリア」が「週刊少年マガジン」連載開始／講談社

## 04

### 在学生の活躍

京都精華大学の在学生の活躍を紹介する。

デジタルクリエイションコース3年生が「フェイスブックグループ」の投稿を見やすくするウェブサービスを開発

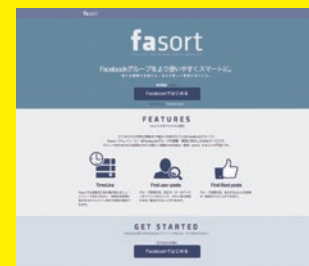
島谷賢治さん、松村達也さん、三上航人さん、村上輝泰さんらデジタルクリエイションコース3年生が開発したウェブサービス「fasort」(フェイス)

助野嘉昭さん（芸術学部ストーリーマンガ専門分野卒業生）  
著書「双星の陰陽師」2巻出版／集英社

簡井康介さん（マンガ学部マンガプロデュースコース卒業生）  
原作「Yの楽園」1巻出版／講談社

三篠真也さん（マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生）  
「小学館新人コミック大賞」大賞受賞

◎人文（2014年5月～7月）  
ミロコマチコさん（人文学部卒業生）  
著書「ヒワとゾウガメ」出版／佼成出版社



https://fasort.com/

ト」が5月20日にリリースされた。「fasort」は、フェイスブックグループの投稿をより見やすく便利にするためのウェブサービス。「いいね！」やコメントに左右されることなく「投稿時間軸に沿ってタイムラインに表示」、「自分が「いいね！」した投稿をまとめて表示」することなどが可能。

「2014京展」において版権コース在学生在が入賞

入選、入賞作品は、2014年6月3日(火)～19日(木)の期間、京都市美術館において展示された。

【版画部門 須田賞】  
「慾態―晏然―」 狗田和志（版画コース4年生）

【館長奨励賞 版画部門】  
「おわんの宇宙」 杉本奈重（芸術研究科博士前期課程1年生）



在学生による授業紹介 **Class Introduction**  
 教員のブックレビュー **Book Review**  
 セイカ事典 **Cyclopedia**  
 イベント紹介 **Event**



「海と空を繋げる」辻江有香（2013年度 テキスタイルコース卒業制作）

貸借対照表 2014年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	資 産 の 部		増 減
	本年度末	前年度末	
固定資産	27,560,824,068	25,574,527,408	1,986,296,660
有形固定資産	18,899,108,464	18,039,176,877	859,931,587
土地	4,227,871,496	4,227,871,496	0
建物	12,217,973,658	11,074,420,413	1,143,553,245
構築物	277,274,488	322,349,269	△ 45,074,781
教育研究用機器備品	1,063,799,673	852,945,646	210,854,027
その他の機器備品	15,813,562	18,423,305	△ 2,609,743
図書	1,090,451,591	1,074,399,902	16,051,689
車輛	358,996	1,666,846	△ 1,307,850
建設仮勘定	5,565,000	467,100,000	△ 461,535,000
その他の固定資産	8,661,715,604	7,535,350,531	1,126,365,073
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	62,181,670	7,755,642	54,426,028
有価証券	1,228,097,079	1,430,816,563	△ 202,719,484
長期貸付金	274,624,981	300,453,852	△ 25,828,871
退職給与引当特定資産	1,344,716,000	1,336,092,000	8,624,000
減価償却引当特定資産	5,593,654,000	3,995,561,000	1,598,093,000
校舎建築引当特定資産	0	298,599,000	△ 298,599,000
第3号基本金引当資産	150,000,000	150,000,000	0
保証金	4,808,450	12,439,050	△ 7,630,600
流動資産	2,199,674,928	3,755,517,364	△ 1,555,842,436
現金預金	1,738,000,902	3,514,409,078	△ 1,776,408,176
未収入金	375,045,762	162,935,635	212,110,127
貯蔵品	5,195,986	5,108,140	87,846
短期貸付金	32,014,570	33,942,420	△ 1,927,850
立替金	5,387,565	9,133,421	△ 3,745,856
前払金	21,780,143	28,434,695	△ 6,654,552
仮払金	22,250,000	1,553,975	20,696,025
資産の部合計	29,760,498,996	29,330,044,772	430,454,224

2014年度予算について

2014年度には各学部で展開中のカリキュラム改編に対応した教育環境を整えるための施設整備費や、老朽化した福利厚生施設を順次リニューアルしていくための設備備品費等を当年度に限った臨時的予算として重点的にとりまとめています。またMicrosoft社のOSソフト「Windows XP」がサポート終了となったことに伴う対応経費として、情報基盤整備費も多く計上しています。それらの結果、単年度の消費収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み2億3千万円の支出超過予算となっています。一方で、支払資金（現金・預金）は2013年度末から比べると1年間で3億円が増加します。

当年度も単年度収支が支出超過となる予算となっていますが、引き続き、基本金組入前の収支は収入超過を確保します。また、将来的には前年度に設置した学部や学科、コースの年次進行等により学生数が増加していく計画であるため、それに伴い、単年度収支も回復していく見込みです。

2014年度予算 2014年4月1日から2015年3月31日まで

資金収支予算書

(単位：円)

収 入 の 部		金 額
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入		5,033,232,000
手数料収入		44,856,000
寄付金収入		52,750,000
補助金収入		482,130,000
資産運用収入		104,817,000
資産売却収入		448,470,000
事業収入		234,171,000
雑収入		80,381,000
前受金収入		1,439,785,000
その他の収入		818,752,762
資金収入調整勘定		△ 1,595,219,072
前年度繰越支払資金		1,738,000,902
収入の部合計		8,882,126,592
支 出 の 部		金 額
科 目	金 額	
人件費支出		3,188,683,000
教育研究経費支出		1,371,770,000
管理経費支出		557,136,000
借入金等利息支出		42,309,000
借入金等返済支出		303,332,000
施設関係支出		92,675,000
設備関係支出		70,133,000
資産運用支出		1,200,000,000
その他の支出		125,806,339
(予備費)		0
資金支出調整勘定		△ 110,400,000
次年度繰越支払資金		2,040,682,253
支出の部合計		8,882,126,592

(単位：円)

負 債 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
固定負債	3,430,590,969	3,339,887,414	90,703,555
長期借入金	2,061,532,000	1,950,876,000	110,656,000
退職給与引当金	1,369,058,969	1,389,011,414	△ 19,952,445
流動負債	2,144,354,135	2,162,281,263	△ 17,927,128
短期借入金	303,344,000	282,284,000	21,060,000
未払金	106,481,339	172,790,765	△ 66,309,426
前受金	1,495,219,072	1,478,027,942	17,191,130
預り金	239,309,724	229,178,556	10,131,168
負債の部合計	5,574,945,104	5,502,168,677	72,776,427
基 本 金 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
第1号基本金	27,725,871,330	26,558,999,714	1,166,871,616
第2号基本金	0	298,599,000	△ 298,599,000
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	467,000,000	467,000,000	0
基本金の部合計	28,342,871,330	27,474,598,714	868,272,616
消 費 収 支 差 額 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
翌年度繰越消費支出超過額	4,157,317,438	3,646,722,619	510,594,819
消費収支差額の部合計	△ 4,157,317,438	△ 3,646,722,619	△ 510,594,819
負 債 の 部、基 本 金 の 部 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計		増 減	
科 目	本年度末		
	29,760,498,996	29,330,044,772	430,454,224

消費収支予算書

(単位：円)

消 費 収 入 の 部		金 額
科 目	金 額	
学生生徒等納付金		5,033,232,000
手数料		44,856,000
寄付金		56,650,000
補助金		482,130,000
資産運用収入		104,817,000
資産売却差額		8,800,000
事業収入		234,171,000
雑収入		80,381,000
帰属収入合計		6,045,037,000
基本金組入額合計		△ 385,567,000
消費収入の部合計		5,659,470,000
消 費 支 出 の 部		金 額
科 目	金 額	
人件費		3,218,383,000
教育研究経費		2,001,197,000
管理経費		600,473,000
借入金等利息		42,309,000
資産処分差額		12,500,000
徴収不能額		13,000,000
(予備費)		0
消費支出の部合計		5,887,862,000
当年度消費支出超過額		228,392,000
前年度繰越消費支出超過額		4,157,317,438
翌年度繰越消費支出超過額		4,385,709,438

## セイカ事典 ら・わ行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

ら

### ライフクリエイションコース 【らいふくりえいしょんこーす】

デザイン学部プロダクトデザイン学科の1コース。2006年に「インテリア・コミュニケーションデザインコース」として設置。2011年の名称変更を経て現在にいたる。インテリア、雑貨、アクセサリーなどを通じ、暮らしを楽しく豊かにするデザイナーを育成している。

り

### 立体造形コース【りったいぞうけいこーす】

芸術学部造形学科の1コース。京都精華短期大学時代の1973年に美術科に設置。木、石、金属、樹脂、ガラスなどを扱う設備が整う。さまざまな素材を扱う技術と、イメージをかたちにする力を身に付けることができる。

れ

### REATA【れあた】

2002年、近隣にあった中華料理食堂「りとる・れあた」の跡地に、学生食堂「れあた」を開設。2013年に内装とメニューを一新し、現在の「REATA」となる。「りとる・れあた」のさらに前身の店では、ジュークボックスが設置され、学生がライブを行っていた。

ろ

### 鹿野苑【ろくやえん】

デッサンモデルとして飼育されている鹿が暮らす、大学構内にある鹿苑。1997年に広島県宮島町より5頭の鹿が譲渡され、現在は20頭が生息。在学生だけでなく、来学者の人気スポットになっている。

わ

### 和の工房【わのこうぼう】

2009年に芸術学部日本画コース内に設けられた、伝統様式による表現を学ぶクラス。日本画の技術を活かし、屏風絵、掛け軸、絵巻物、扇子などの伝統技法に取り組む。

# Book Review

## 教員のブックレビュー



竹内一馬

デザイン学部デジタルクリエイションコース教員。架空の学部「京都精華大学水槽学部」を運営し、水景制作から学ぶデザイン教育を研究中。活動状況は水草ブログ (<http://seikasuisoubu.jugem.jp/>) より随時配信。

デザイン学部 竹内一馬が選ぶ「まさか自分がこんな風になるとは！」を物語る本

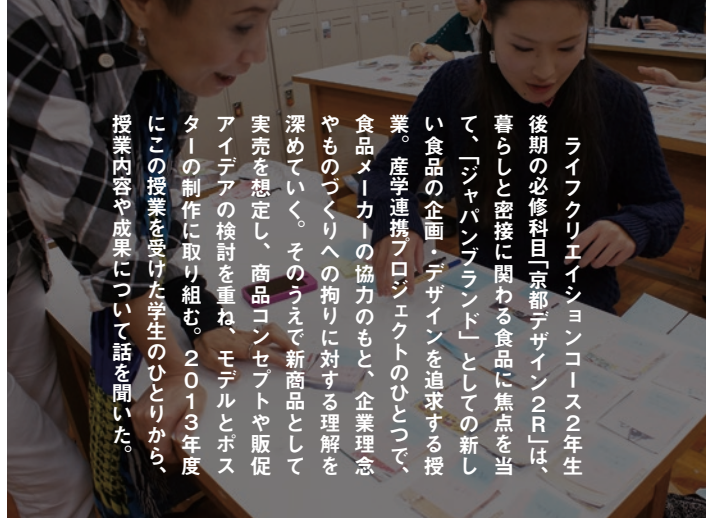
人間長く生きていくと、「自分がこんな風になるとは思わなかったなあ」みたいなことが結構ありますよね。昔はまったく興味がなかったのに、いつの間にかハマってたとか、ちょっとしたきっかけで変革が起きることが。僕にとっては読書がまさにそれ。高校時代、部活を引退した後の暇つぶしにミステリ小説を読みだすまでは、活字だらけの本なんて一切読みませんでしたからね(笑)。そういうわけで僕が読書好きになる引き金となったジャンルのなかからオススメを一冊。『写楽閉じた国の幻』という伝説の浮世絵師・写楽を題材にした美術ミステリです。著者の島田荘司さんはミステリ作家でありながら写楽研究者でもあるので、巧妙なストーリー展開と合わせて写楽に関するあらゆる知識が得られる、非常に読み応えのある作品です。

若いときは新たな刺激を求めてサブカル系の本もよく漁っていましたが、それを凌駕してしまったのが、僕が個人的な趣味としてはじめ、今では環境を意識した未来志向の教材として提唱している水草水槽の世界です。人工的につくって管理する環境とはいえ、水や植物といった自然物で構成するので毎日景色が変わるし、人知を越えた変化も起きる、いわば「生きた絵画」なんです。『ガラスの中の大自然』はそんな水草水槽の魅力を伝える写真集。単に眺めるだけでも癒されるし、表現活動の刺激にもなると思います。「自分がこんな風になるとは……」の極めつけは、こうして京都精華大学の教員をやっていることですね。教員とはいえ、あくまで一人の人間。自分の人生さえ見通すことはできないのですが、学生たちは自分の人生をかけて進

**「まさか自分がこんな風になるとは！」を物語る本**

1. 『写楽 閉じた国の幻』 島田荘司 (新潮社)  
天才浮世絵師・写楽の正体とは？ 日本美術史上最大級の謎に、美術研究家の主人公が挑む。
2. 『ガラスの中の大自然』 天野尚 (世界文化社)  
カメラマン・水景画家の著者による、ネイチャーアクアリウムのレイアウト集。
3. 『シールド(盾)』 村上龍 (幻冬舎)  
コジマとキジマ、幼なじみの二人が人生をかけて追い求めた、自分を守る「盾」とは？

路相談にやってくる。悩まないといえど嘘になりますよね。そういうときに『シールド(盾)』を読み返すと、生き方のヒントや人間の普遍性を再確認できて、彼らにかけられるべき言葉が浮かんできたりします。誰もが経験する人生の浮き沈み、希望と不安をテーマにしていて、迷いが生じたときに何らかの示唆を与えてくれる良書です。



ライフクリエイションコース2年生 後期の必修科目「京都デザイン2R」は、暮らしと密接に関わる食品に焦点を当て、「ジャパンブランド」としての新しい食品の企画・デザインを追求する授業。産学連携プロジェクトのひとつで、食品メーカーの協力のもと、企業理念やものづくりへの拘りに対する理解を深めていく。そのうえで新商品として発売を想定し、商品コンセプトや販促アイデアの検討を重ね、モデルとポスターの制作に取り組む。2013年度にこの授業を受けた学生のひとりから、授業内容や成果について話を聞いた。

# Class Introduction

## 在学生による授業紹介

身に付けた力を社会で試す授業を紹介する。

### 第2回 デザイン学部ライフクリエイションコース 「京都デザイン2R」(株)虎屋との産学連携プロジェクト

私たちが取り組んだ課題は、「ジャパンブランド」の代表格、和菓子。それも、かの有名な「株式会社虎屋」の新商品として、「新しい贈答シーン」を提案する和菓子です。それまでの課題制作とは異なり、メーカーやユーザーを意識した商品開発だったので、プランを練る前に、和菓子や虎屋ブランドへの理解を深めました。会社の歴史や和菓子の種類、代表的な羊羹の講義を受けたり、職人の方が目の前で生菓子づくりを実演してくださったりと、和菓子の基本を教わることからはじまりました。

その後、「贈る」和「菓子」について、グループによるブレインストーミングを実施。そこで出た課題やキーワードをもとに、各自のプランを練ります。私は途中で行き詰まったのですが、

原点に戻って「私が贈られてうれしいものは何だろうか？」と考えてみることに。結果、家族も好きな日本酒にちなんだ「お箸でいただく、お酒のアテになる生菓子」がひらめき、さらに「さしすそ」の五大調味料を活かす基本コンセプトを立ちあげることができました。続いて、ネーミング、「コヒー」、パッケージなど本格的な詰めめの作業に入ります。容器ひとつとっても、素材、形、色使いまで、贈答シーンや企業イメージにマッチさせるための課題は山積み

でした。

中間プレゼンでは、紙の容器を提案したのですが、担当の茶谷先生に「酒席で食すこと、虎屋のブランドイメージを考慮した素材選びを」というアドバイスをもとに再考することに。

虎屋さんの店舗に何度も足を運び、街に出てさまざまな商品やディスプレイを見るなかで、最終的に陶製の容器を考案。老舗の品格を想起させる洗練されたフォルム、店頭ディスプレイとしても積み重ねることができ、なおかつ食事の際の持ちやすさ、食べ終わった後も二次利用できるなど、さまざまな視点を踏まえてのデザインにいたしました。プランづくりで出遅れた分、そこからは急ピッチでモデルの制作、撮影、ポスター、プレゼン資料の準備に追われました(笑)。

最終プレゼンでは、虎屋の営業企画部の方から「ぜひ食べてみたい」という嬉しいコメントをいただきました。

そして、虎屋さんのご厚意で、一条にある虎屋ギャラリーで作品展を開催できました。舞妓さんをモチーフにした友人の作品は、期間限定で実際に商品化もされたんです。この授業を通じて、売る人や買う人のことをとことん考え抜き、自発的に行動して最良のものづくりをめざす姿勢を学べたように思います。



「すぐにデザイン作業に入るのではなく、まずは和菓子の基本を学ぶことから。実際に和菓子をつくりましたが、生地の色付け作業だけでも一苦労。それを難なくやってのける職人技の凄みを実感しました」



平井さんが企画した生菓子「さしすそ」のモデル。「菓子は甘いもの」という常識をくつがえし、「日本酒のお供になる」という斬新な和菓子を提案した。



デザイン学部  
ライフクリエイションコース3年生  
平井未央さん

中学校の授業で本棚を制作したのがきっかけでものづくりに目覚め、プロダクトデザインと伝統美術工芸について学べる京都精華大学をめざすように。2014年度に、株式会社ワコール・ウンナナクルとの産学連携プロジェクト「ときめき×未来4」プロジェクトで制作した作品が優秀賞を受賞。

## イベント紹介

京都精華大学に関係する  
イベントを案内する。  
一般の方も聴講、参加が可能。

### ●石川九楊連続「公開」講座「花々の構造」―花と日本人

石川九楊（デザイン学部・デザイン研究科教員）による連続公開講座。  
【日時】  
第3講 8月26日（火）自然の花  
第4講 8月27日（水）花と性愛  
第5講 10月2日（木）花言葉  
第6講 12月11日（木）花と生活  
毎回13時〜14時30分  
【場所】京都精華大学 春秋館2階 S201  
【申込】不要  
【問い合わせ先】京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL 075-702-5129

## ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

### ●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

### ●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL: 075-702-5201 / FAX: 075-702-5391 E-mail: kikaku@kyoto-seika.ac.jp

## 卒業生の方へ

### ●京都精華大学の情報は Facebook でもお知らせしています。

www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity



### ●「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail: kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX: 075-702-5391

# 木野通信 KINO PRESS 62

木野通信 第62号

2014年8月20日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL: 075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp

## 京都精華大学 学部・学科・コース

### 芸術学部

【造形学科】洋画コース/日本画コース/立体造形コース

【素材表現学科】陶芸コース/テキスタイルコース

【メディア造形学科】版画コース/映像コース

### デザイン学部

【イラスト学科】イラストコース

【ビジュアルデザイン学科】グラフィックデザインコース/デジタルクリエイションコース

【プロダクトデザイン学科】プロダクトコミュニケーションコース/ライフクリエイションコース

【建築学科】建築コース

### マンガ学部

【マンガ学科】カートゥーンコース/ストーリーマンガコース/マンガプロデュースコース/ギャグマンガコース/キャラクターデザインコース

【アニメーション学科】アニメーションコース

### ポピュラーカルチャー学部

【ポピュラーカルチャー学科】音楽コース/ファッションコース

### 人文学部

【総合人文学科】

### お詫びと訂正

前号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

木野通信 61号 P.22 イベント紹介

石川九楊連続「公開」講座「花」の構造―花と日本人

【誤】

●第3講 8月26日（木） ●第4講 8月27日（木）

【正】

●第3講 8月26日（火） ●第4講 8月27日（水）

### ●おいしい文字がある暮らし〜読み手と作り手の対話〜

『文字の食卓』の著者である正木香子氏（文筆家）と、『本を読む人のための書体入門』を一緒につくった紺野慎一氏（フォントデザイナー）をゲストに迎え、書体デザイナーの鳥海修（デザイン学部客員教員）を交えた特別講義を行う。

【日時】9月19日（金）18時〜19時30分  
【場所】京都精華大学 春秋館1階 S101

【申込】不要

【問い合わせ先】京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL 075-702-5129

### ●特別読書コーナー・サッカーマンガと京都サンガFC&パニーズ京都SC

地元のプロサッカークラブであるサンガとパニーズの壁面デザインに囲まれた読書コーナーに、約350冊の名作サッカーマンガがラインナップ。

【日時】9月7日（日）10時〜18時 最終入館は17時30分

【場所】京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー4（特別読書コーナー）  
【休館日】毎週水曜 ※7月10日（木）

9月2日（火）は無休

### ●なかよしフェスタ〜魔法少女は永遠に〜

2015年に創刊60年を迎える少女マンガ雑誌「なかよし」とのコラボで、複製原画の展示やマンガ家体験イベント、出張編集部「まんが講習会」、イラストやファンレターを投函できる「なかよしポスト」の設置などを行う。

【日時】9月28日（日）10時〜18時 最終入館は17時30分

【場所】京都国際マンガミュージアム 1階

【休館日】毎週水曜 ※7月10日（木）9月2日（火）は無休

### ●「京都の伝統美術工芸」講座

京都の伝統美術・工芸に関する研究者や作家、職人、デザイナーなど、毎回異なる分野の講師が、各々の専門テーマで講演を行う。

【日時】2014年9月18日（木）〜2015年1月15日（木）全14回  
毎回水曜13時〜14時30分

第1回 9月18日（木）「ガイダンス」  
これからの伝統工芸 佐藤敬二（本学

教員）ほか

第2回 9月25日（木）「和のデザインと継承〜京の友禅文様」今井淳裕（株式会社千總）  
第3回 10月2日（木）「友禅染〜技術と造形的試行」森口邦彦（染色家）など

【場所】京都精華大学 黎明館1階 L101

【申込】不要

【問い合わせ先】京都精華大学 教務課 芸術教育担当 TEL 075-702-5244

### ●オープンキャンパス

すべての学部・コースで授業体験や学生作品の展示、個別相談を開催。名古屋・金沢・福井・天王寺・三宮・明石・奈良・高松・岡山から無料送迎バスを運行する。

【日時】9月21日（日）10時〜16時

【場所】京都精華大学

【申込】不要

www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus/